テーラーのザルツブルク紀行

伊丹　一之(東京むかで)

はじめに

今年(2009年)の夏に、オーストリアのザルツブルクにおいて「マスターテーラー世界大会」が開かれましたので、大会参加をメインに、帰路にハンガリーのブダペストを訪問してきました。

「マスターテーラー世界大会」は、ワイズの国際大会と同じで、1年おきに加盟国の持ち回りで開催されます。世界大会の無い年にはアジア大会が開かれるのもワイズと同じです。ちなみに、日本では1964年、東京オリンピックの年に世界大会が開催されました。

今年の世界大会は、モーツァルトの生誕地であり、ちょうどザルツブルク音楽祭の開催期間中でもあり、世界遺産の街・ザルツブルクでの開催と言うことで、メネット同伴で参加することにしました。

ザルツブルクのあらまし

オーストリアの首都ウィーンは地図で右のほうにありますが、ザルツブルクは真ん中より左寄りにあります。ドイツ国境に近く、ミュンヘンにも近い位置にあります。日本からは、ウィーンまでシベリア上空を飛んで12時間ほど。ウィーンからは国内線のプロペラ機で50分ほどです。

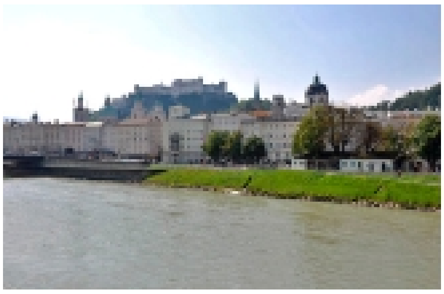

写真1

ザルツブルクの人口は約15万人で、市内の中央をザルツァッハ川が流れており、川の右岸が新市街、左岸が旧市街になっています。写真1の川の向こう側は旧市街です。

マスターテーラー世界大会

第33回世界大会は、8月1日から6日まで、世界の15カ国から約300名の参加で開催。日本からは31名が参加しました。

写真2

会場は、新市街に建つミラベル宮殿に隣接した緑豊かな公園の一角に、2000年に完成した近代的な「ザルツブルク会議場でした。開会式(写真2)は、夕刻から会議場の前庭でガーデンパーティー形式で行われ、写真には、マスターテーラー会長、ザルツブルク州知事、各国代表などが写っています。

大会プログラムには、市内観光、エクスカーション、セミナー、ファッションショー、晩餐会などがありましたが、今日のスピーチでは、観光をメインにします。

ミラベル宮殿と庭園

写真3

ミラベル宮殿は、今は市役所として使われており、2階には豪華な「大理石の間」(写真3)があって、毎晩コンサートが開かれています。そこへ登る階段は、グレーと白の大理石で出来ている「天使の階段」と呼ばれています。

写真4

土曜日の午前中には、結婚式が行われています。結婚式を終えた人々が、「ペガサスの泉」(写真4)の周りで写真を撮っていました。この場所は、ミュージカル映画「サウンド・オブ・ミュージック」で「ドレミの歌」を歌う場面に登場します。

写真5

美しく整備されたミラベル庭園(写真5)も見所です。庭園越しに霞んで見える「ホーエンザルツブルク城塞」は、この街のシンボルでもあり、街を守ってきた塞でもあります。このアングルは絵葉書に必ず登場します。

市内の交通

ザルツブルクの観光エリアは、コンパクトにまとまっており、観光には歩いて回るのが一番です。

市内の交通は、2車体連接型の大型トロリーバスが走っています。トロリーバスの架線は周囲のビルから張られているため、電柱は無く、すっきりしています。街路灯の電柱も無く、照明器具は道路中央の架線にぶら下がっています。

観光用の馬車も走っていますし、車は小型車が多く、ディーゼルエンジンのマニュアル車が主流です。歩行者用の信号は、青の時間が短く、すぐに変わってしまいます。これは、排気ガスの出る車を出来るだけ止めないようにとの配慮だそうです。

また、観光バスも、客待ちの停車中はエンジンもエアコンも止めなくてはならない規則で、走り出さないと涼しくしてもらえません。ヨーロッパの環境に対する先進性を見る思いでした。

マカルト広場

ミラベル庭園を抜けたところに「マカルト広場」があり、そこには「三位一体教会」、「モーツァルトの住家」があります。「三位一体教会」(写真6)は、入り口の両側に鐘楼があり、中央奥にドームを有する、ザルツブルクに多く見られる教会建築様式です。

写真6

「モーツァルトの住家」(写真7)は、モーツァルトが17歳から住んだ家で、中には当時の楽器や楽譜などが展示され、日本語のガイドツアーがあります。

写真7

今の建物は、日本の企業などからの寄付によって近年に復元されたものです。

マカルト広場から、にぎやかな商店街を抜けて細い路地に入ると、急に静かなアパートの続く住宅街になっています。

また、ザルツァッハ川へ向かうと、川のほとりに「カラヤンの生家」があり、等身大の「カラヤン像」が川に向かって指揮をしています。

旧市街の歴史的建造物

ザルツァッハ川を渡ると旧市街に入ります。世界遺産に登録されている歴史地区です。旧市街では、狭い地域を有効に使うために、建物同士がくっついて建っていますので、建物の向こう側に行くための「通り抜けトンネル」(写真8)が至る所にあります。

写真8

トンネルを一つ抜けたところに、一番にぎやかな「ゲトライデ通り」があります。ここは建物から突き出している装飾を凝らした鉄細工の看板が有名です。

通りの中ほどには、「モーツァルトの生家」(写真9)があり、モーツァルトは1756年に4階の中央の部屋で生まれたのだそうです。

写真9

ゲトライデ通りを越えて進むと岩山に突き当たりますが、そこに「ザルツブルク祝祭劇場」があります。崖を利用して建っており、ステージの奥は崖をくり抜いて作られているそうです。

ちょうど、ザルツブルク音楽祭開催中で、しかも世界不況のお陰というかチケットが手に入り、マルタ・アルゲリッチとネルソン・フレイレのピアノ・デュオ・リサイタル(写真10)を、大劇場で聴くことができました。夏時間なので夜8時ごろまで明るく、コンサートは9時開演、アンコールも含めて11時過ぎまで演奏が続きました。

写真10

祝祭劇場と同じ岩山の上に「ホーエンザルツブルク城塞」がそびえています。城塞へはケーブルカーで1分足らずで登れ、城塞を一周することが出来ます。市街地側を見下ろすと、手前に旧市街の教会の塔がいくつもそびえ、その向こうにザルツァッハ川、新市街を一望に見渡すことが出来ます。

反対側には高級住宅地が広がり、サウンド・オブ・ミュージックでトラップ大佐の家として使われた邸宅も見えます。後ろの山はドイツとの国境になっています。城塞から下ると、いくつかの広場がありますが、サウンド・オブ・ミュージックにも登場する「レジデンツ広場」が有名です。大司教の宮殿レジデンツを背にして見たのが写真11で、中央の噴水と後には博物館になっている新レジデンツが見えます。

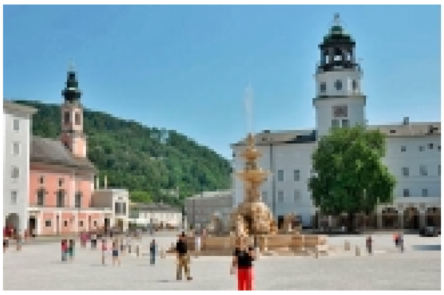

写真11

その奥は「モーツァルト広場」に繋がっていて、そこには「モーツァルト像」が建っています。

写真12

レジデンツ広場の南側の右手には、ザルツブルクで一番大きな「大聖堂」(写真12)がそびえています。入り口は2本の塔が建つ右側にあり、その前はドーム広場で、野外コンサートのステージになっています。大聖堂では、モーツァルトが洗礼を受け、オルガニストを務めました。また、カラヤンの葬儀も行われました。

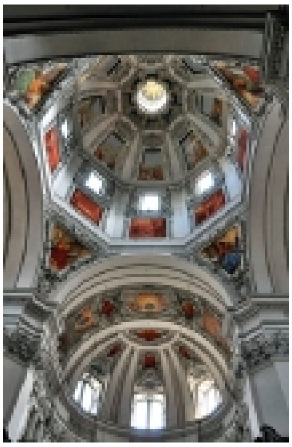
写真13

大聖堂のドーム天井を見上げると(写真13)、周囲の窓からの光で絵画や彫刻が美しく見えます。また、最上部のさらに尖った部分は、ひときわ明るく輝くように作られていました。

城塞のすぐ脇の崖下には、600年代に創建された「ザンクト・ペーター教会」と「教会墓地」が広がっています。

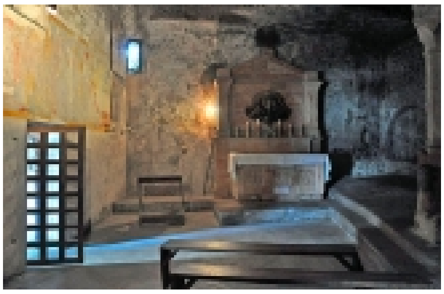
写真14

崖の中腹に見えるのは、崖をくり抜いて作った初期キリスト教徒の礼拝所と墓所・カタコンベ(写真14)です。
旧市街には、1705年創業の最も古いカフェ「トマセッリ」が、今なお営業しています。

オーストリア伝統衣装

世界大会プログラムの中に、オーストリア伝統衣装の工房であり、博物館、ショップを備えた「ゲッスル・グワントハウス」見学がありました。

市街地から5㎞ほど離れた郊外に建つ「ゲッスル・グワントハウス」は、もともと貴族の邸宅で、その前庭で野外ファッションショーを行う予定でしたが、急な雨のため、ショーは残念ながら屋内に変更になりました。

メンズの伝統衣装は、グリーンを配したものが特徴で、写真15の衣装も、衿やボタン穴、ベストにグリーンを配しています。ボタンは鹿の角をくり抜いたものを使います。レディスの伝統衣装(写真16)は、丈の短いブラウスにコルセット様のものを付け、ャザースカートにエプロンを合わせる、というもの。ホスト国オーストリアのご婦人方は、ほとんどこの伝統衣装で出席していました。

写真15

写真16

ザルツ・カンマーグート

大会エクスカーションには、ザルツブルク市内から約40㎞離れた「ザルツ・カンマーグート」（塩の御料地）へのバスツアーが組まれていました。

「ザルツ」はドイツ語で塩のこと。この地方は古くから岩塩の産地で、ハプスブルグ家の富を支えてきました。ここで採れる岩塩は、ミネラル分を5%ほど含んでおり、含有するミネラル成分によって色が変わるそうです。

ツアーの行く先は、「ヴォルフガング湖」と湖畔の街「ザンクト・ヴォルフガング」。バスで約1時間、ヴォルフガング湖が見渡せる高台で小休止。湖畔の街ザンクト・ギルゲンからは遊覧船に乗り込み、静かな湖上をクルーズ、ザンクト・ヴォルフガングを目指して進みます。

写真17

白亜の教会が見えてくると、ザンクト・ヴォルフガングです(写真17)。湖上から見た教区教会と街並みは、絵葉書にも必ず登場します。

写真18

教会内はやや暗く渋い印象ですが、祭壇の後ろにある彫刻と15世紀に描かれた祭壇画(写真18)は、目を引きました。

この街は、オペレッタ「白馬亭にて」の舞台として登場する「ホテル・イム・ヴァイセン・レッスル」が建っていることでも有名です。

ファッションショー

マスターテーラー世界大会のメインプログラムは、3回のファッションショーです。

1回目は「比較作品ショー」。これは、各国代表に同じ生地を支給して、デザインを競うもの。

2回目は「ナショナル・ファッションショー」で、オーストリア国内作品が100点ほど登場しました。

3回目は「インターナショナル・ファッションショー」参加各国からの200点ほどの作品が披露されました。

写真19

写真19はフィナーレの模様で、フォーマル・ウェアが華やかに勢ぞろいしたところです。

ガラ・ディナー

最後の夜は、9時から「ガラ・ディナー」(写真20)です。

写真20

ファッションショーの会場は、円卓の並ぶ華やかなディナー会場に様変わり。ご自慢のタキシードやドレスで着飾った参加者が一堂に会し、大会最後の晩を楽しみました。食事のあとはダンスタイムを楽しみ、踊りの輪は12時過ぎまで続きました。

伊丹のブログ「テーラーのひとりごと」で、「ザルツブルク紀行」を連載しています。

大きな写真もご覧になれますので、覗いて見てください。

http://tailor-itami.cocolog-nifty.com/

(東京むかでクラブ　2009年11月例会卓話)